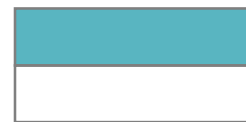


2019年度 受験対策用

簿記 2 級

商業簿記テキスト



目次

第 1 章 収益・費用の認識基準・・・1

1. 発生主義 2
2. 実現主義 2
3. 費用収益対応の原則 4

第 2 章 商品売買・サービス業・・・5

1. 売上原価対立法 6
2. 仕入割戻し・売上割戻し 7
3. 仕入割引・売上割引 8
4. 棚卸減耗損・商品評価損 9
5. サービス業の処理 12

第 3 章 外貨建取引・・・・・・・・・・14

1. 外貨建取引 15
2. 為替予約 21

第 4 章 手形・債権の譲渡・・・23

1. 手形の割引 24
2. 手形の裏書譲渡 25
3. 手形の不渡り 26
4. 手形の更改 27
5. 営業外支払手形・営業外受取手形 29
6. 債権の譲渡 30

第 5 章 銀行勘定調整表・・・・・・・・32

1. 銀行勘定調整表とは 33
2. 不一致の原因 34
3. 修正仕訳 35
4. 銀行勘定調整表の作成 37

第6章 固定資産・・・・・・38

1. 固定資産の割賦購入 39
2. 減価償却 42
3. 減価償却費の記帳方法 45
4. 固定資産の買換え 46
5. 固定資産の除却・廃棄 47
6. 固定資産の滅失 48
7. 建設仮勘定 50
8. 圧縮記帳 51
9. 無形固定資産 53

第7章 リース取引・・・・・・56

1. リース取引とは 56
2. オペレーティング・リース取引 58
3. ファイナンス・リース取引 60

第8章 有価証券・・・・・・62

1. 有価証券の分類 63
2. 売買目的有価証券 64
3. 満期保有目的債券 68
4. 子会社株式・関連会社株式 70
5. その他有価証券 71
6. 端数利息 73

第9章 引当金・・・・・・75

1. 貸倒引当金 76
2. 商品（製品）保証引当金 78
3. 売上割戻引当金 79
4. 返品調整引当金 80
5. 退職給付引当金 81
6. 賞与引当金 82
7. 修繕引当金 83

第10章 純資産 ・ ・ ・ ・ ・ 84

1. 純資産とは 85
2. 株式の発行①（会社設立時） 86
3. 株式の発行②（増資） 87
4. 株式発行費用 88
5. 剰余金の配当と処分 89
6. 株主資本の計数の変動 91

第11章 税金 ・ ・ ・ ・ ・ 92

1. 課税所得の算定と法人税等の計算 93
2. 税効果会計 95
2. 消費税 102

第12章 その他の論点 ・ ・ ・ ・ 104

1. 合併 105
2. 研究開発費 107
3. 保証債務 108

第13章 精算表と財務諸表 ・ ・ 109

1. 決算の流れ 110
2. 精算表の作成 111
3. 損益計算書 113
4. 貸借対照表 117
5. 株主資本等変動計算書 119
6. 製造業の財務諸表 121

第14章 本支店会計 ・ ・ ・ ・ 122

1. 本支店間の取引 123
2. 本支店合併財務諸表 126
3. 帳簿の締切り 128



第15章 連結会計① ・ ・ ・ ・ 133

1. 連結会計とは 134
2. 支配獲得日の処理 135
3. 支配獲得後の処理 142

第16章 連結会計② ・ ・ ・ ・ 150

1. 内部取引高と債権債務の相殺消去 151
2. 貸倒引当金の修正 153
3. 手形取引 155
4. 未実現利益の消去①商品 156
5. 未実現利益の消去②土地 159

第17章 連結会計③ ・ ・ ・ ・ 161

1. 連結精算表 162
2. 連結財務諸表 163



第1章

収益・費用の認識基準

～学習内容～

1. 発生主義
2. 実現主義
3. 費用収益対応の原則

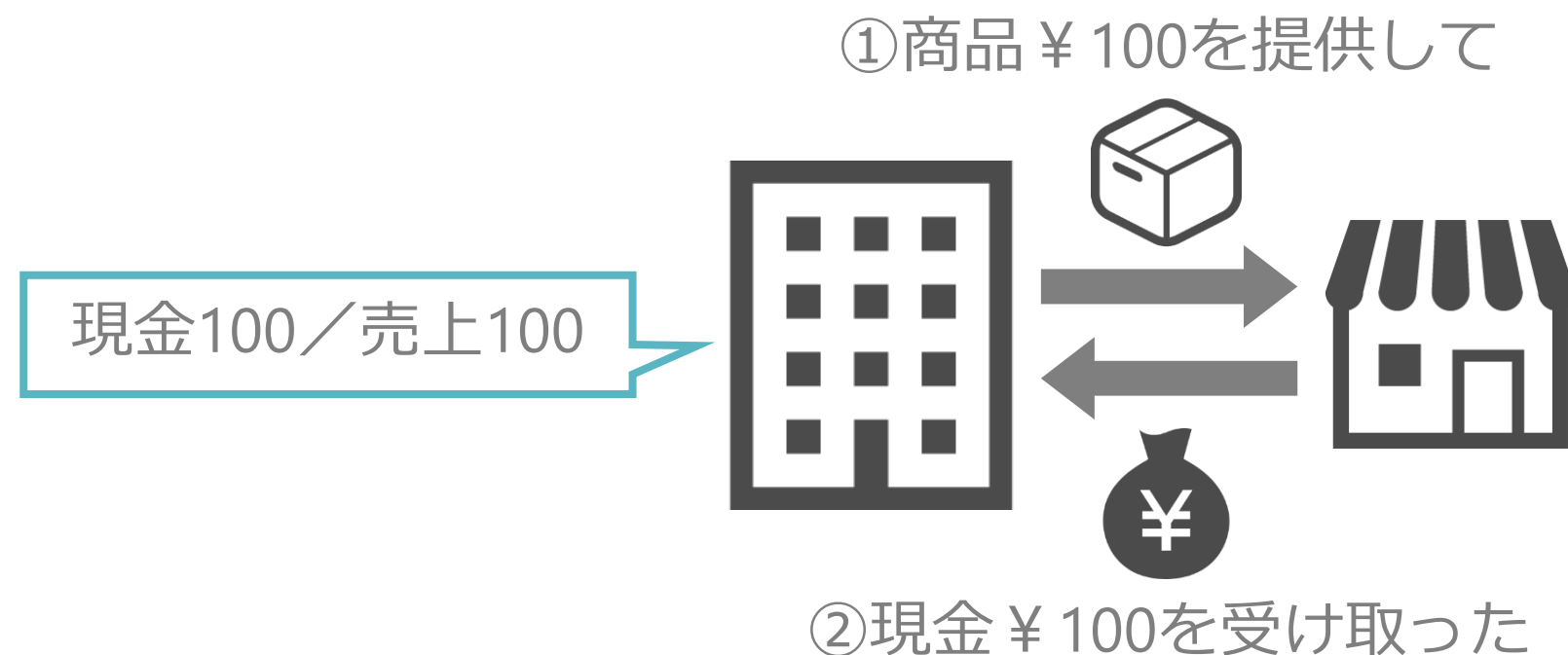


1. 発生主義

- ・発生主義とは、発生した時点で収益や費用を認識する（仕訳する）考え方
- ・費用と一部の収益の認識基準は発生主義が採用されている

2. 実現主義

- ・実現主義とは、実現した時点で収益を認識する考え方
- ・「実現した時点」とは、実現の2要件（①商品・サービスの提供と②対価の受け取り）を充たした時点という
- ・収益の認識基準は実現主義が採用されている



・ 売上の具体的な認識基準は 3 つ

出荷基準	引渡基準	検収基準
・ 商品を出荷したときに売上を認識	・ 商品を先方に引き渡したときに売上を認識	・ 商品を先方に引き渡した後、先方が商品の品質や数量などの確認を完了したときに売上を認識

【例】 検収基準で売上を認識する場合

商品を発送したとき													
【取引例】 得意先より商品 ¥ 100の注文が入り、代金は掛けとして本日発送した。当社では、売上の記帳については検収基準を採用し、商品売買の記帳は3分法を用いている。				仕訳なし									
検収が終了したとき													
【取引例】 上記商品に関し、得意先より注文どおり商品が届き検収が終了した旨の連絡が入った。				<table><tr><td>売</td><td>掛</td><td>金</td><td>100</td><td>売</td><td>上</td><td>100</td></tr></table>			売	掛	金	100	売	上	100
							売	掛	金	100	売	上	100

3. 費用収益対応の原則

・費用収益対応の原則とは、「収益」と「収益を獲得するためにかかった費用」を期間的に対応させる考え方

【例】×1年度の売上（収益）と売上原価（費用）の対応					
①商品3個を現金 ¥ 300で仕入れた。			・仕入（費用）は発生主義で認識		
仕	入	300	現	金	300
②商品2個（原価 ¥ 200）を現金 ¥ 400で売り上げた。			・売上（収益）は実現主義で認識		
現	金	400	売	上	400
③×1年度の決算において売上原価を算定する。期首繰越商品は0個、当期商品仕入高は3個（¥ 300）、期末繰越商品は1個（¥ 100）であった。			・期末に残っている商品1個（¥ 100）を仕入（費用）から繰越商品（資産）に振替え		
繰	越	商	品	100	仕
					入
					100



×1年度に2個分の収益と売上原価が計上されて
収益と費用が期間的に対応しているね

×1年度に計上される収益と費用

- ・売上： ¥ 400（商品2個分の収益）
- ・仕入： ¥ 200（商品2個分の売上原価）

対応



第2章

商品売買・サービス業

～学習内容～

1. 売上原価対立法
2. 仕入割戻し・売上割戻し
3. 仕入割引・売上割引
4. 棚卸減耗損・商品評価損
5. サービス業の処理



第1節 売上原価対立法

3級では三分法と分記法を学習したよね



- ・商品を仕入れたときに、**商品**（資産）の増加として処理し、商品を売り上げたときに、**売上**（収益）を計上するとともに、その商品の原価を商品から**売上原価**（費用）に振り替える方法

① 商品を仕入れたときの仕訳

商品の増加として処理

【取引例】

商品 ¥ 100を仕入れ、代金は掛けとした。

商	品	100	買	掛	金	100
---	---	-----	---	---	---	-----

② 商品を売り上げたときの仕訳

売価で**売上**を計上するとともに、その商品の原価を商品から**売上原価**に振り替える

【取引例】

商品（原価 ¥ 100、売価 ¥ 150）を売り上げ、代金は掛けとした。

売	掛	金	150	売	上	150	
売	上	原	価	100	商	品	100

売価

原価

③ 決算時の仕訳

処理なし

【取引例】

決算日における期首商品棚卸高は ¥ 20、期末商品棚卸高は ¥ 30であった。

仕 訳 な し

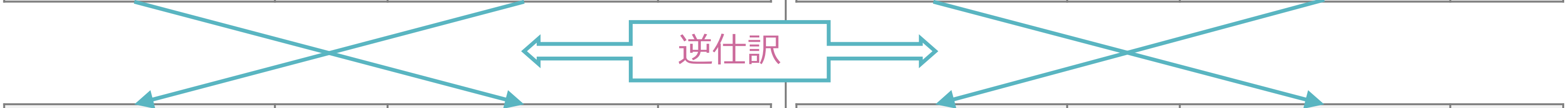
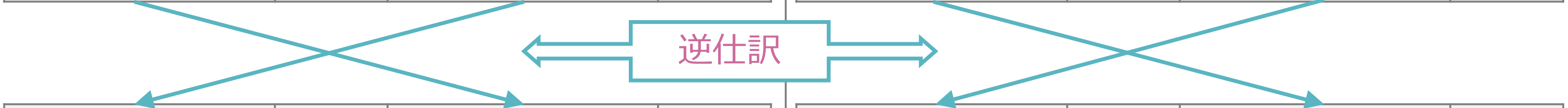
第2節 仕入割戻し・売上割戻し

わりもど

- ・ 割戻し（リベート）とは、売上高や販売量に応じて代金の一部を減額すること

【取引例】

A社は仕入先B社から¥10の割戻しを受け、買掛金と相殺した。

割戻しを受けた側（A社）の処理						割戻しをした側（B社）の処理											
仕入を取り消す⇒仕入れたときの逆仕訳						売上を取り消す処理⇒売り上げたときの逆仕訳											
・ 仕入れたときの仕訳						・ 売り上げたときの仕訳											
仕入			××		買掛金		××		売掛金			××		売上		××	
						逆仕訳											
						買掛金			10		仕入						

3級で学習した返品処理と同じだね



第3節 仕入割引・売上割引

・ 割引きとは、掛け代金を早期に決済することにより代金を減額することをいう

【取引例】

A社はB社に対する買掛金 ¥ 100について、早期に決済したことにより3%の割引きを受け、残額を小切手を振り出して支払った。

仕入割引を受けた側（A社）の処理

減額される分を仕入割引（収益）で処理

買	掛	金	100	仕	入	割	引	3
				当	座	預	金	97

売上割引をした側（B社）の処理

減額する分を売上割引（費用）で処理

売	上	割	引	3	売	掛	金	100
現			金	97				

¥ 100×3% = ¥ 3

ポイント

返品・値引き・割戻し	割引き
仕入または売上を取り消す	仕入割引または売上割引で処理



違いに注意しよう

第4節 棚卸減耗損・商品評価損

- ・ 売上原価とは当期に売り上げた商品の原価をいう
- ・ 決算において売上原価を算定する

棚卸減耗損	商品評価損
決算日に商品の実際の数量を数える（棚卸し） →商品の紛失等により、帳簿上の数量（帳簿棚卸高）よりも実際の数量（実地棚卸高）が少ないことがある →この商品数量の減少のことを棚卸減耗という →棚卸減耗の金額を棚卸減耗損（費用）として処理するとともに、繰越商品（資産）を減らす	商品の価値が仕入れたときよりも低くなることもある →商品の時価（正味売却価額）※が原価よりも低い場合、時価まで減額する 時価＞原価の場合は処理なし →原価と時価の差額を商品評価損（費用）として処理するとともに、繰越商品（資産）を減らす
棚卸減耗損＝（帳簿棚卸数量－実地棚卸数量）×原価	商品評価損＝（原価－時価）×実地棚卸数量

棚卸減耗損と商品評価損を①売上原価に含める方法と②売上原価に含めない方法があるよ。これについては第13章で説明するね。

※ 時価（正味売却価額）＝売価－見積販売直接経費

販売にかかる費用



【取引例】
決算において売上原価を算定する。期首繰越商品は ¥ 30、当期商品仕入高は ¥ 300であった。なお、期末繰越商品は次のとおりである。
帳簿棚卸数量：6個 実地棚卸数量：5個 単価：原価@ ¥ 10 時価（正味売却価額）@ ¥ 8円

① シークリ・クリシー 3級の復習

- ・ 期首繰越商品 → 繰越商品から仕入に振り替える
- ・ 期末繰越商品 → 仕入から繰越商品に振り替える

仕	入	30	繰	越	商	品	30
繰	越	商	品	60	仕	入	60

¥ 10 × 6個 = ¥ 60

② 棚卸減耗損の計上

- ・ 棚卸減耗の金額を棚卸減耗損（費用）として処理するとともに、繰越商品（資産）を減らす

棚	卸	減	耗	損	10	繰	越	商	品	10
---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	----

※ (6個 - 5個) × ¥ 10 = ¥ 10

③ 商品評価損の計上

- ・ 原価と時価の差額を商品評価損（費用）で処理するとともに、繰越商品（資産）を減らす

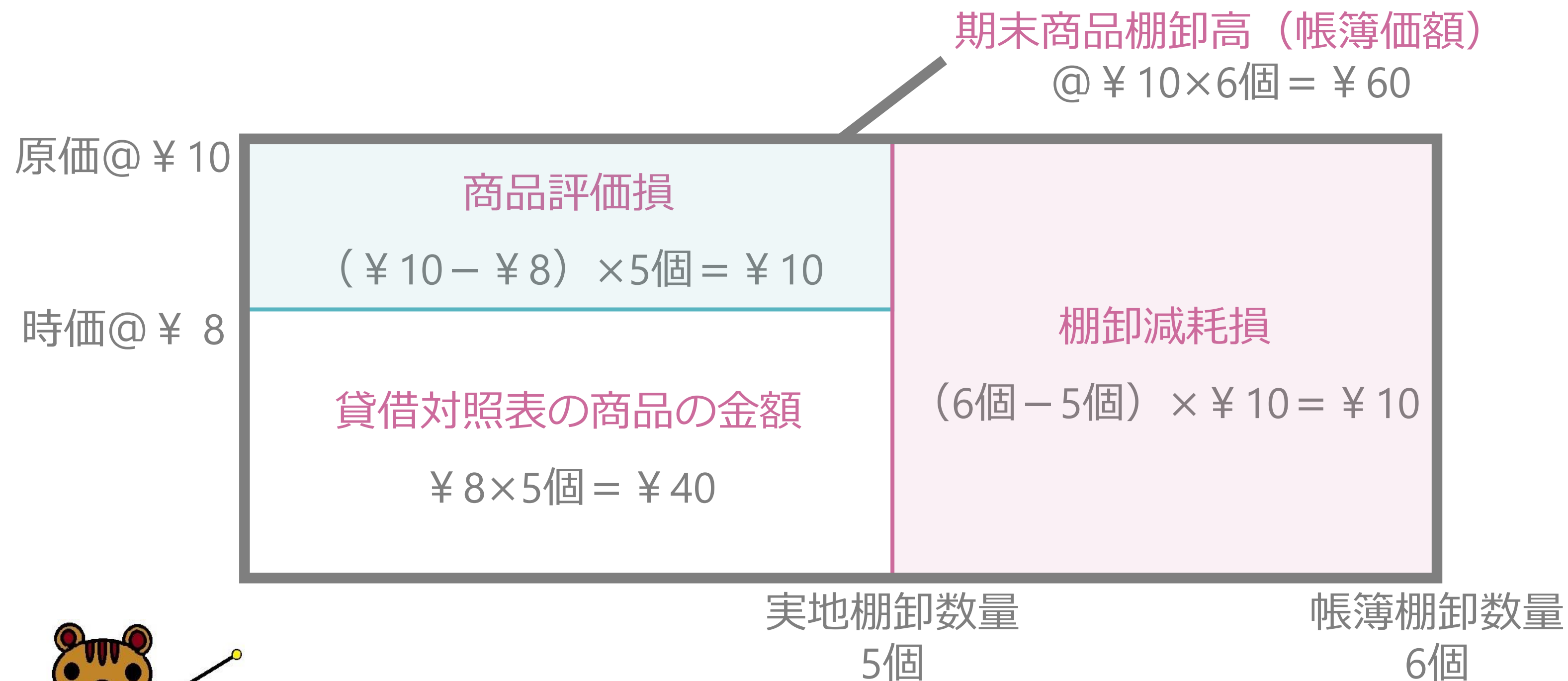
商	品	評	価	損	10	繰	越	商	品	10
---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	----

※ (¥ 10 - ¥ 8) × 5個 = ¥ 10



ポイント

問題を解くときは、図を書いて計算するとミスを防ぐことができる



第 5 節 サービス業の処理

- ・ サービス業ではサービスという形のないモノを取引する
- ⇒ サービスのことを^{えきむ}役務という

【取引例】					
①資格試験の受験学校を経営している A 学園は、来月開講予定の講座（受講期間 1 年）の受講料 ¥ 300 を現金で受け取った。また、当講座で使用する教材の作成費用として ¥ 120 を現金で支払った。					
②3月31日、本日決算にあたり上記①の取引について収益と費用を計上した。なお、上記講座は決算日現在、全体の3分の2が完了している。					
①の処理					
・ サービスの提供前に受け取った代金					
⇒前受金（負債）で処理					
・ サービスの提供前に支払った代金					
⇒仕掛品（資産）で処理					
			現	金	300
			前	受	金
					300
			仕	掛	品
				120	現
					金
					120
②の処理					
・ サービスを提供した分だけ収益と費用を計上					
⇒前受金（負債）を役務収益（収益）に振り替える					
仕掛品（資産）を役務原価（費用）に振り替える					
			前	受	金
				200	役
					務
					収
					益
					200
			役	務	原
				80	仕
					掛
					品
					80

¥ 300 × 2/3 = ¥ 200

¥ 120 × 2/3 = ¥ 80

【取引例】

①旅行業を営むBツーリスト株式会社は、ツアーを企画したところ顧客から申込みがあり、代金¥500を現金で受け取った。

②上記①のツアーを催行し、宿泊代や添乗員への報酬など、¥300を小切手を振り出して支払った。

①の処理

・サービスの提供前に受け取った代金
→前受金（負債）で処理

現	金	500	前	受	金	500
---	---	-----	---	---	---	-----

②の処理

・サービスを提供した分だけ収益を計上
→前受金（負債）を役務収益（収益）に振り替える
・サービスの提供にかかった費用を計上
→役務原価（費用）で処理

前	受	金	500	役	務	収	益	500
---	---	---	-----	---	---	---	---	-----

役	務	原	価	300	当	座	預	金	300
---	---	---	---	-----	---	---	---	---	-----

役務収益の発生とほぼ同時に役務費用が発生する場合には
仕掛品を経由させず、役務原価にそのまま計上するよ

